

# 地域をつくる



「地域づくり」活動がにわかに盛り上がりつつありました。東北新幹線の新青森駅が今年12月に開業するのを控え、地域の資源発掘と観光への結びつけが盛んに行われています。

2月18日(木)、町総合文化センター「パルナス」で、「中泊町

地域づくり町民フォーラム」が開催されました。

このフォーラムは、国土交通省「過疎集落の安心・安定の暮らし維持構想策定事業」の一環で行われたもので、「10年後の中泊町のために今できること」をテーマに、基調講演や小学生の研究発表、地域づくり事例の発表、パネルディスカッションが行われました。

開会に先立ち、町長が「地域づくりは住民主体の活動。農工商の連携で地域一体となった取り組みが求められている。今回のフォーラムが実りあるよう



期待したい」とあいさつ。基調講演では、NPO 法人 樹木・環境ネットワーク協会理事長の澁澤寿一氏が「住民の絆で故郷を守るー地域づくりの新たな視点」と題し、秋田県のある里山の事例などを中心に説明しました。

この集落では、山ですべてのライフサイクルが完結し、集落が子どもを含めた住民の生きる力を育んでいることで、それが

地域の絆につながっていることが紹介され、「地域の未来は子どもたちの中にある。この後の発表をよく聞いてほしい」と講演を締めくくりました。

続いて、中里小学校と小泊小学校によるワークショップの成果発表が行われ、「中泊町の将来の夢を考えよう」をテーマに研究されてきた成果を、それぞれのチームごとに発表。

「ブルーベリー広め隊」や「小泊にスポーツドームを作り隊」など、子どもたちならではの壮大な夢とユニークなアイデアが、聴衆の拍手を誘っていました。

子どもたちの発表が終わった後は、この日まで行った地域づくりワークショップの成果を、柏谷祐美子さんと長利和子さんが発表。「起きて夢見る会」という地域づくり団体の設立が報告されました。

最後は、「地域住民主体の地域づくりと中泊町の未来」を語

るパネルディスカッションが催され、町長と基調講演した澁澤氏に津鉄サポーターズクラブ会長の飛嶋氏を交え、町の将来と住民目線の地域づくり、発表された子どもたちの未来像について、お互いに討論し、フォーラムは幕を閉じました。



のにだいぶ苦労し「難しかった」と言っていました。2匹目は難なく釣り上げ、満足した様子でした。





# 真冬の農業体験と金多豆蔵の旅

奥津軽の魅力を知ってもらおうと企画されている「ずっぱど奥津軽」シリーズが、2月22日(月)に町を訪れました。

このシリーズは4回目を数え、今回初めて中泊町を中心に企画したとのこと。県内外からの29人の観光客が「真冬の農業体験と金多豆蔵の旅」と銘打った旅を満喫しました。

アスパムからバスで訪れた一行は、博物館をまず見学。学芸員の説明に耳を傾けながら、奥津軽の歴史に思いを馳せます。

お昼には町の特産弁当「イガ米<sup>べい</sup>」の試食。いかめしや、のしかのおにぎり、ほっけハンバ



ーグ、野菜などが入ったこの弁当は、すべて町内産の食材から作られたもので、手間暇を惜しまず作られた弁当の味に、試食した参加者は「おいしい」と舌鼓を打っていました。

ピュアで面白い物を楽しんだ一行は、薄市地区で冬にアスパラガスを栽培している佐藤イネ子さんのビニールハウスへ。通常数年はかかるアスパラの収穫を特殊な方法で1年目に収穫できるように栽培していることが説明され、参加者の関心を引いていました。参加者はアスパラをはさみで収穫し、ストープの上で焼いたアツアツのアスパラをそのまま食べました。冬のアスパ

ラは、糖度が高いこともあり「甘い！」といった感想が多く聞かれました。

最後は、町の玄関口である中里駅内で「金多豆蔵人形劇」を観覧。金多と豆蔵のかけあいには、何度も何度も笑い声が吹き出し、公演が終わっても「金多くノ」「豆蔵くノ」と惜しむ声や、一緒に記念撮影をしたりなど、一行は冬のなかどまりの魅力を心ゆくまで堪能し、町を後にしました。



## なかどまり・イガ米<sup>べい</sup>～きてけフェア ～アスパムで～

町の特産品が一堂に会し、魅力を発信する「なかどまり・イガ米<sup>べい</sup>～きてけフェア」が、2月6日(土)青森県観光物産館「アスパム」で行われました。

このイベントは、県観光連盟が主催している「2010アスパムウィンターフェスティバル」の一環として行われ、ほかに三沢市やむつ市などが参加して行われた観光イベントです。

この日は寒風吹きすさぶ日でしたが、小泊産の海産物と中里産の特産品などが販売され、

会場は多くの買い物客でにぎわっていました。

そのほか正面玄関前では、釜ゆでだこ販売、サメの解体と無料配布、イカ釣り体験が行われ、特にイカ釣り体験は午前・午後合わせて100匹のイカを用意しましたが、すぐチケットが売り切れる人気でした。

青森市内から参加した男の子は、1匹目を釣る

